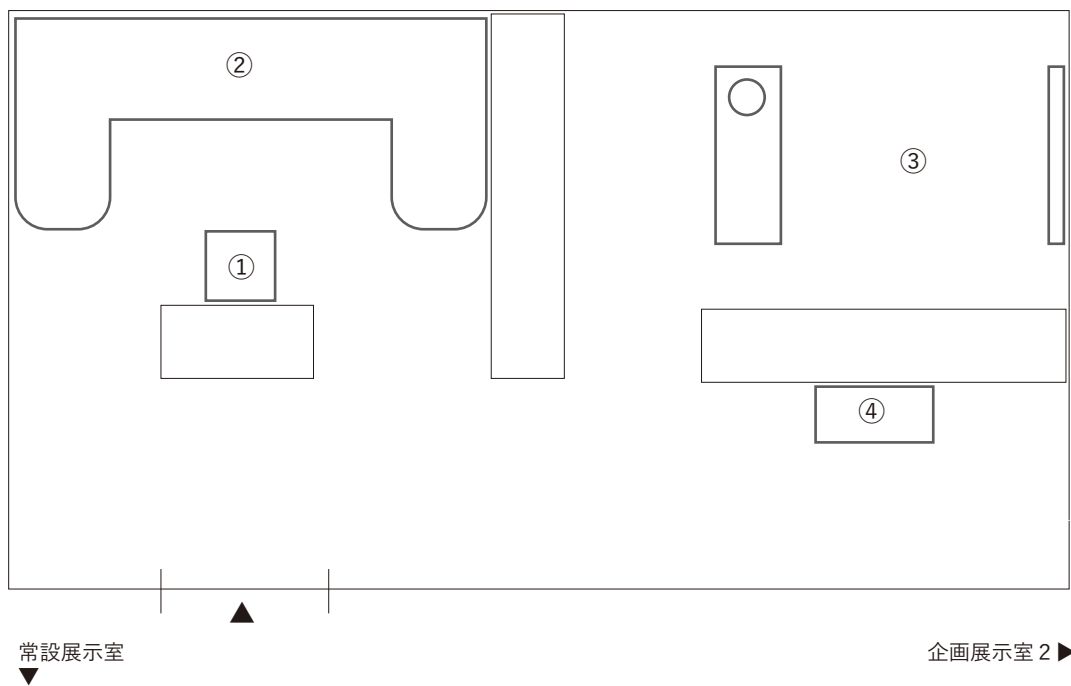


若手アーティスト支援プログラム Voyage2022

鈴木史 個展 「Miss. Arkadin」 2022.7.16^[土] - 9.4^[日] 塩竈市杉村惇美術館



- ① 《都会の女》(2022 / 木材、スマートフォン、アルミホイル、写真)
- ② 《女のゴミ》(2022 / 家庭ゴミ、アルミホイル、ビニールクロス)
- ③ 《祈ることは思考すること》(2022 / 造花、花瓶、教会の椅子、投影方式の映像)
上映時間：『未来への抗議』12分、『祈ることは思考すること』10分
椅子に座ってご鑑賞ください。
- ④ 《女らしく見えるゴミ》(2022 / 映像)

※写真撮影は可能ですが、動画撮影はお控えください。写真をWEBやSNS等で公開する場合は、作家名・作品名を明記してください。

※作品にはお手を触れないようお願いいたします。

鈴木史 (すずき ふみ / Fumi Suzuki)

映画監督・美術家・文筆家。宮城県塩竈市出身。映画美学校フィクションコース修了後、映画美術スタッフとしての活動を経て、東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻監督領域修了。現在は、映画の制作だけでなく、インスタレーション作品も発表しており、映画と美術のフィールドを横断しながら活動。映画評の執筆も行なっている。

主催：塩竈市杉村惇美術館 共催：塩竈市 助成：公益財団法人カメイ社会教育振興財団（仙台市）
後援：河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 TBC東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ
KHB東日本放送 エフエム仙台 BAYWAVE78.1FM ケーブルテレビマリネット 仙台リビング新聞社

「Miss. Arkadin」

オーソン・ウェルズ監督、脚本、出演、製作による『アーカディン / 秘密調査報告書』という1955年に作られた映画がある。原題は“Mr. Arkadin”。日本では劇場未公開で、1996年に初めて『秘められた過去』というタイトルでビデオがリリースされた。

『アーカディン / 秘密調査報告書』は、冒頭、主人公の男がとある事件に巻き込まれることで幕を開ける。主人公は、背中をナイフで刺された被害者の男から死に際に、「アーカディン」という名前を聞く。それは、オーソン・ウェルズ演じる権力者の名前で、ミスター・アーカディンは過去の記憶を失っていることがわかる。ミスター・アーカディンは、主人公に自分自身の調査をさせることとなる。彼は言う。「私は私は何者なのかわからないのだ」と。

塩竈はわたしの生まれ育った町だ。だけど、しばらく帰ることができずにいた。それは、新型コロナウイルスの流行だけが原因でもなく、今のわたしには、過去の私を知っている人々や、生まれてから17歳までの記憶の中だけにあるこの町そのものと、ふたたび出会うことをためらう理由があった。わたしにとってこの町は、いつのまにか、語りえぬ町となっていた。

でも、たしかに、記憶を手繰り寄せようとすれば、中学校までの通学路や、魚市場、ホテルの裏手にある墓地の急な坂道の風景が、おぼろげに浮かんで消えていく……。

ミスター・アーカディンのように、わたしも自分自身の調査を依頼したいと思う。『アーカディン / 秘密調査報告書』において、ミスター・アーカディンは記憶を失ってなどおらず、知られたいくない過去があるために、主人公を利用して、居所を突き止めた自分の過去を知る人物をひとりひとり殺してまわっていたことがわかる。

結局、父権の象徴のような髭を蓄えたオーソン・ウェルズは、自身の過去が暴かれたと知り、飛行機から落下して、自ら命を断ってしまう。自身の過去を直視した瞬間、その男は自分自身の目が潰れてしまった。

オーソン・ウェルズのような名声も権力も髭も、わたしには無い。

でも、そんなわたしが、まったくあたらしいまなざしでこの町を見つめるとき、まったくあたらしいまなざしが、わたしを見つめかえしもする。